

3/30.旗

# 絶対書いてほしい思い込み

「どうかな? とためらつちゃダメです。ダメもとで、でも絶対書いてほしいと思ってお願いするんです」

戦争法廃止の2000万署名に取り組む思いを話す堤美紀子さん(55)。

取り組み始めて8日ほどで200人分集めました。昨年の戦争法案廃案を求める署名は150人でした。法案成立後は条件が整わず、できませんでした。「やる時は集中してやらないとできない性格なんですね」と田口新記録更新中です。

あらゆる機会に

派遣登録して食品の店頭販売などをする仕事で

す。行く場所が当日告げられます。

が、行く先々で会った人

父は第2次大戦時に韓

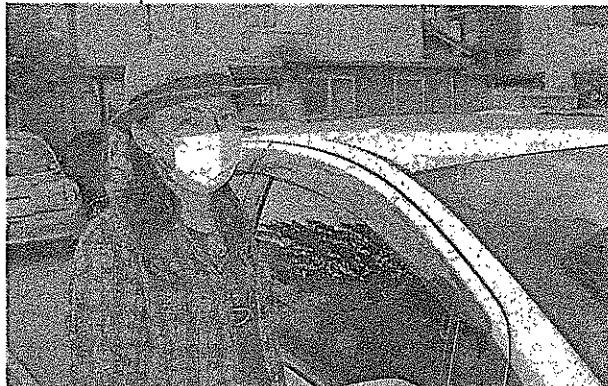
や、プライベートで初めて入った店など、あるいは、広島で被爆しました。

名古屋の派遣労働者 堤美紀子さん

た。そのことを知ったのが20歳のときでした。それから歴史を学び、戦争が悲劇を生みだすことを知りました。署名に取り組む原動力です。

署名で断られたのは2人だけ。お願いする時は「こういうのあるけど」と署名を見せ、趣旨と多くの団体が取り組んでいることを紹介します。あまり見ずに承諾する人は書く前にちゃんと読んでもらいます。納得してもらつた多くの人が「署名用紙を置いていて」と言ってくれるといいます。

## 広げよう 2000万署名



### 「対話の機会に」

前回お願いした喫茶店の店員さんは、政治の話をしない人でした。今回訪問すると、共産党が選挙協力で候補を取り下げ

ます。「あそこのパートさんは4時までにいかないと。家族も多いからいっぱい集まるかな」。頭をフル回転させ、きょうも車のハンドルを握りま

た。そのことを知ったのが20歳のときでした。それから歴史を学び、戦争が悲劇を生みだすことを知りました。署名に取り組む原動力です。

当初は「前回よりも少しうまく取れれば」と200人分を目標にしていた堤さん。署名用紙のコピー代を気にしていたら、訪問したガソリンスタンドの人が60枚もコピーしてくれました。

「一枚5人分だから300人頑張れということか」。背中を押され、『集中行動期間』継続中です。

(今村一路)